



京都市長選挙特集・内部資料

京都市長選挙始まる 医療守り、医師・看護師増やし、国保料引き下げの市長実現を



1月22日、京都市長選挙の告示日です。早朝、市役所前で出発式を開催しました。投票日は2月5日。それまで毎日、区役所などで期日前投票が可能です。市長選挙の争点は、消費税増税・原発NO、高すぎる国保料など市民生活と経済を立て直す、京都市の不正・不公正を正すなどです。これまでの旧態依然とした京都市政なのか、刷新をかかげる京都市政を中村さんとともにつくるかどうかです。

医療の分野でも、現在の市長は、黒字でも値下げしないために全国でも4番目の高い国保料となっています。また、市立看護短期大学の閉鎖、保健所の廃止など、医療や介護に冷たい市政です。

青年を中心に、中村ブログやツイッターなどに、「市政を変えたい」願いが集まり始めています。中村ブログには1万人以上が訪問しています。今度こそ、京都市政を中村さんとともに変えましょう。

全国からの支援続々 「京都で勝って、政治の流れを変えてもらわんと」の思いに応え、頑張りましょう

これまで、岸田全医労委員長、松尾全厚労書記長、全日赤近畿梶間書記長、山崎奈良県医労連書記長、小林全医労近畿書記長、染原大阪医労連書記長、門兵庫県医労連書記長、耳原病院労組、医療労組おおさかなどなど（全員、お名前が紹介できなくてごめんなさい）、全国から支援が続々と。本当にありがたいことです。岸田さんはじめ全医労の方々は、朝から宣伝で大奮闘。松尾さんは昨日から「福島の子供は原発の3キロ圏内で被曝した人もいます。そういう人を出してはならない」と訴えてくれました。全国は一つ、関西は一つの思いで、暮らしと医療を守る市政にチェンジしましょう。



やり直しができる政治にするためには京都市政を変えることが大事ですね

加盟組合の旗びらきで紹介された青年の思いを紹介します。

「僕は、医療の現場に来る前は、陶器を作る仕事をしていました。不況で店は倒産したのですが、その時にお世話になったのが出口弁護士で、出口さんが押している人と聞いて、支持をしようと思いました。自分としては陶器職人にもう一度帰りたいと思っています。でも、そのためには生活や勉強を公的に保障してくれる北欧やヨーロッパのような制度が必要ではないか。何度でも、やり直しができる社会にすることが大事ではないか。自分の経験からそう思います。政治の転換というのはそういうことですね。たくさんの方があきらめている。あきらめない社会にするために、今度は、僕もたくさんの方に中村さんを支持するように言います」